

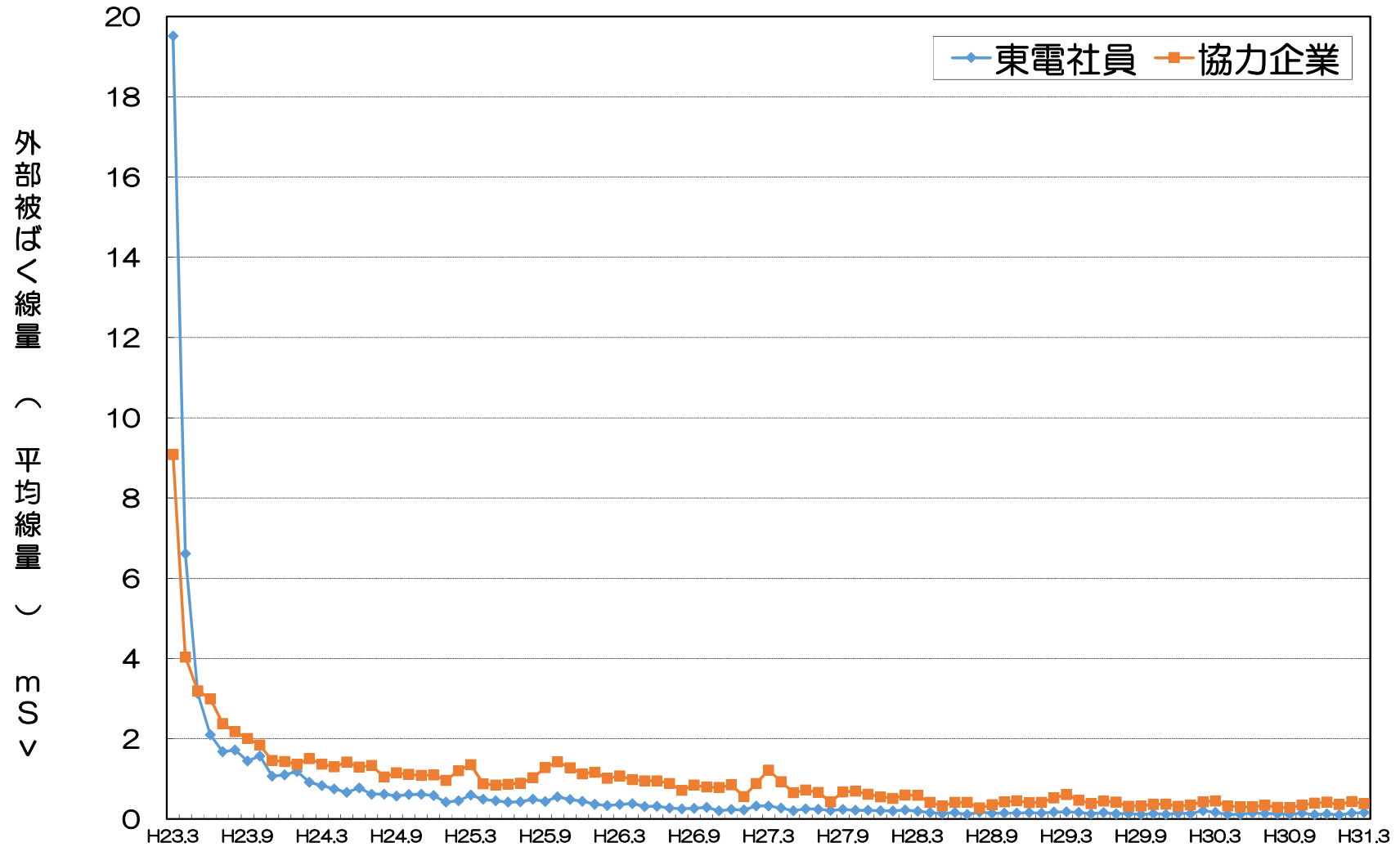
# 福島第一原子力発電所従事者の被ばく線量の全体概況について

2019年 6月 14日

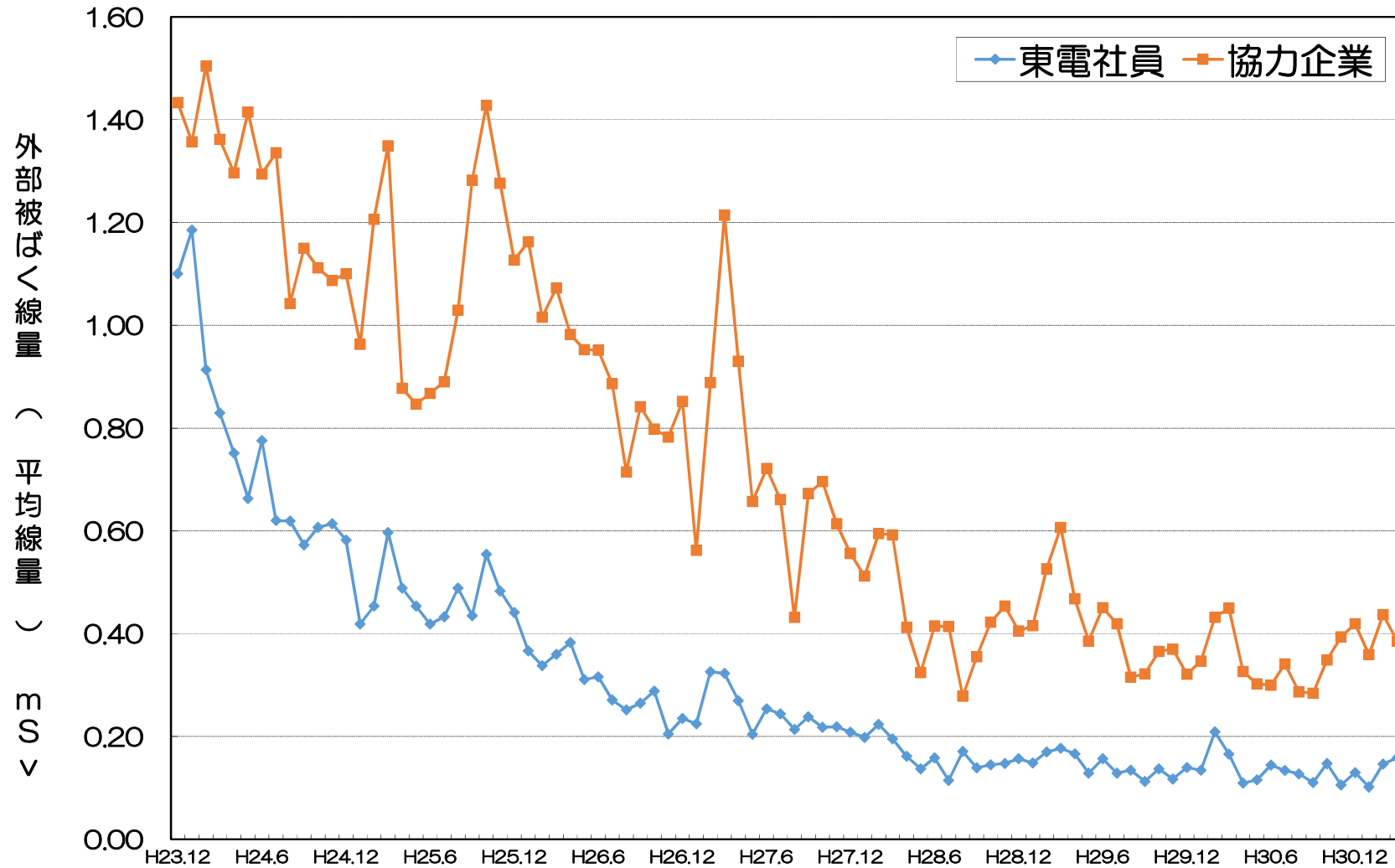
---

東京電力ホールディングス株式会社

# 1. 発災以降の月別実効被ばく線量の低減状況(月平均線量) <sup>1</sup>

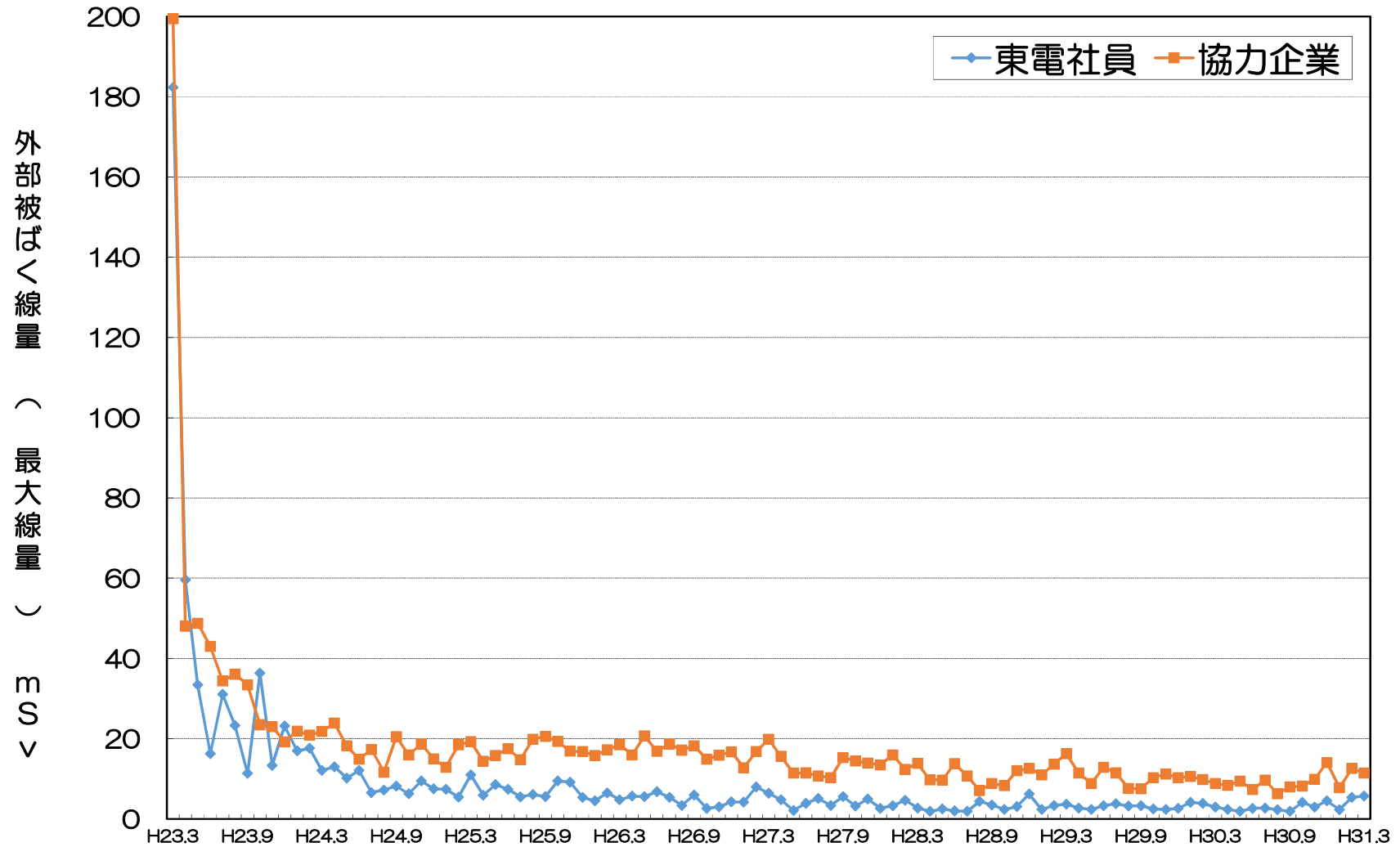


## 2. H23年12月以降の実効線量推移(月平均線量)

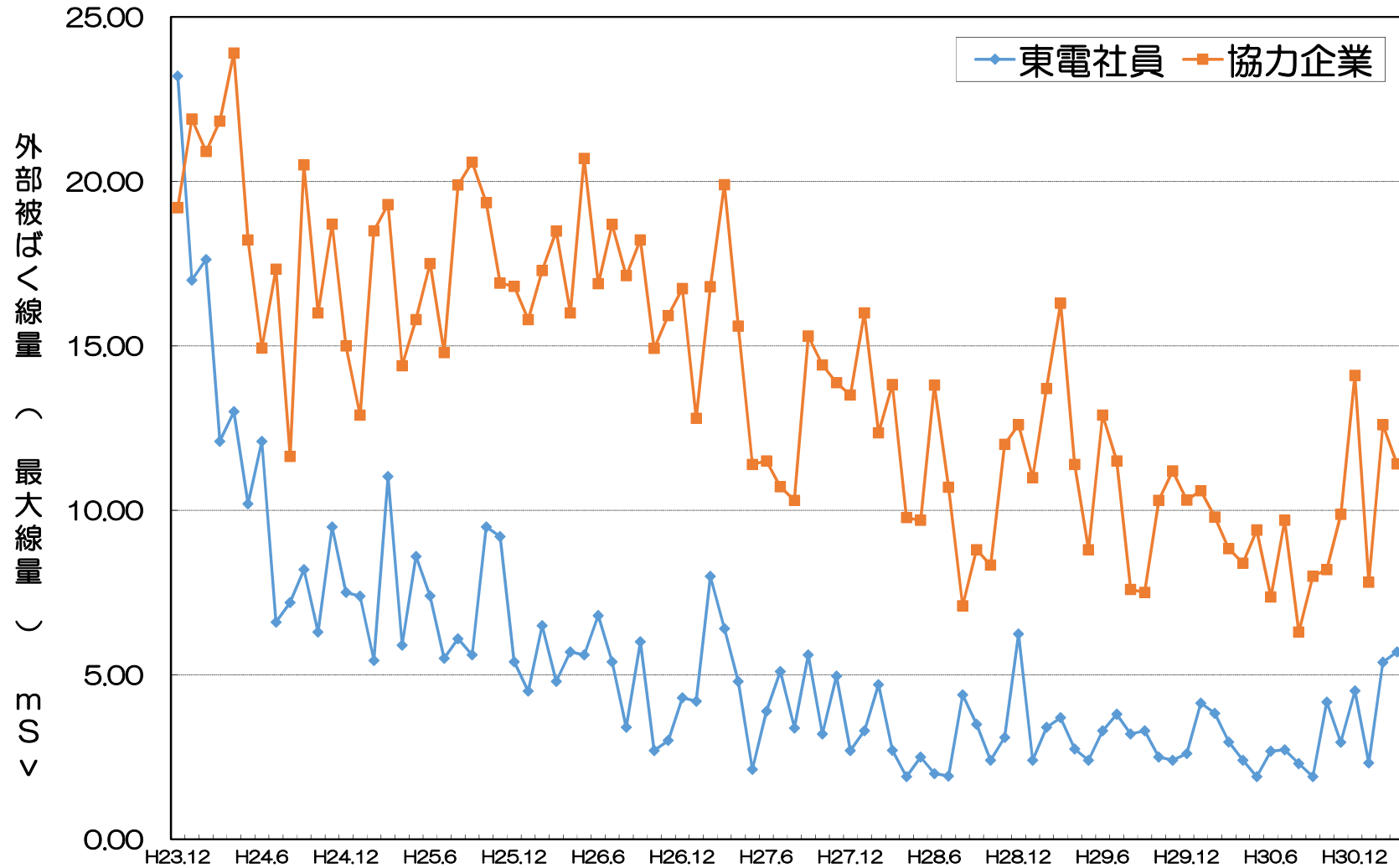


※ H23年12月(ステップⅡ)以降

### 3. 発災以降の月別実効被ばく線量の低減状況(月最大線量) <sup>3</sup>



## 4. H23年12月以降の実効線量推移(月最大線量)



※ H23年12月(ステップⅡ)以降

## 5. 放射線業務従事者の累積実効被ばく線量 H28年度分

区分 (mSv)	H28. 4～H29. 3月		
	東電社員	協力企業	計
100超え	0	0	0
75超え～100以下	0	0	0
50超え～75以下	0	0	0
20超え～50以下	0	216	216
10超え～20以下	22	1,139	1,161
5超え～10以下	90	1,393	1,483
1超え～5以下	404	4,371	4,775
1以下	1,162	7,038	8,200
計	1,678	14,157	15,835
最大 (mSv)	14.75	38.83	38.83
平均 (mSv)	1.27	3.09	2.90

○H28年度（4月～3月）に作業実績のある  
15,835名のうち

- 15,835名（100%）は50mSv以下
- 15,619名（98.6%）は20mSv以下
- 12,975名（81.9%）は5mSv以下



○全ての作業者について被ばく線量は線量限度内(50mSv/年)で管理。

## 6. 放射線業務従事者の累積実効被ばく線量 H29年度分

区分 (mSv)	H29. 4～H30. 3月		
	東電 社員	協力 企業	計
100超え	0	0	0
75超え～100以下	0	0	0
50超え～75以下	0	0	0
20超え～50以下	0	74	74
10超え～20以下	18	1,133	1,151
5超え～10以下	85	1,038	1,123
1超え～5以下	306	3,571	3,877
1以下	1,121	6,597	7,718
計	1,530	12,413	13,943
最大 (mSv)	15.94	32.74	32.74
平均 (mSv)	1.15	2.88	2.69

○H29年度（4月～3月）に作業実績のある  
13,943名のうち

- 13,943名（100%）は50mSv以下
- 13,869名（99.5%）は20mSv以下
- 11,595名（83.2%）は5mSv以下



○全ての作業者について被ばく線量は線量限度内(50mSv/年)で管理。

## 7. 放射線業務従事者の累積実効被ばく線量 H30年度分

区分 (mSv)	H30. 4～H31. 3月		
	東電社員	協力企業	計
100超え	0	0	0
75超え～100以下	0	0	0
50超え～75以下	0	0	0
20超え～50以下	0	0	0
10超え～20以下	21	853	874
5超え～10以下	70	870	940
1超え～5以下	247	2,856	3,103
1以下	1,105	5,284	6,389
計	1,443	9,863	11,306
最大 (mSv)	15.55	19.90	19.90
平均 (mSv)	1.04	2.65	2.44

○H30年度（4月～3月）に作業実績のある  
10,663名のうち

- 11,306名（100%）は50mSv以下
- 11,306名（100%）は20mSv以下
- 9,492名（84.0%）は5mSv以下



○全ての作業者について被ばく線量は線量限度内(50mSv/年)で管理。



## 8. 平成28年4月1日を始期とする5年間の累積実効被ばく線量

区分 (mSv)	H28. 4～H31. 3月		
	東電 社員	協力 企業	計
100超え	0	0	0
75超え～100以下	0	6	6
50超え～75以下	0	81	81
20超え～50以下	35	1,377	1,412
10超え～20以下	129	2,068	2,197
5超え～10以下	172	2,185	2,357
1超え～5以下	534	4,445	4,979
1以下	1,238	8,513	9,751
計	2,108	18,675	20,783
最大 (mSv)	35.21	79.90	79.90
平均 (mSv)	2.55	5.66	5.34

○H28.4～H31.3に作業実績のある

20,783名のうち

- 20,783名 (100%) は100mSv以下
- 20,696名 (99.6%) は50mSv以下
- 19,284名 (92.8%) は20mSv以下

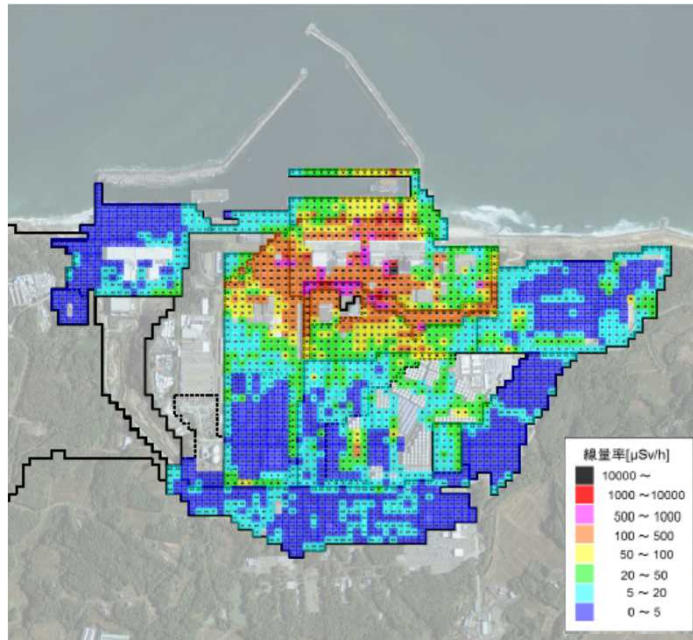


○全ての作業者について被ばく線量は線量限度内(100mSv/5年)で管理。

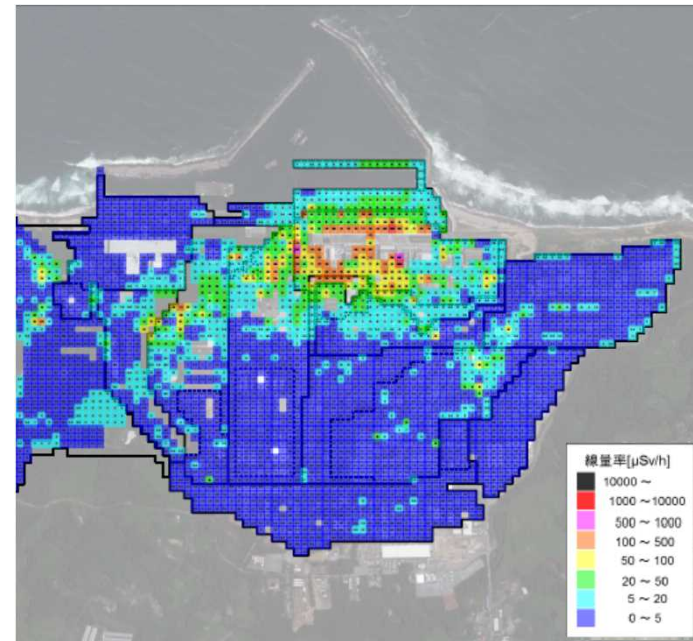
## 9. 環境線量率の低下

- 構内の環境改善により、環境線量率が低下している。

H26年度



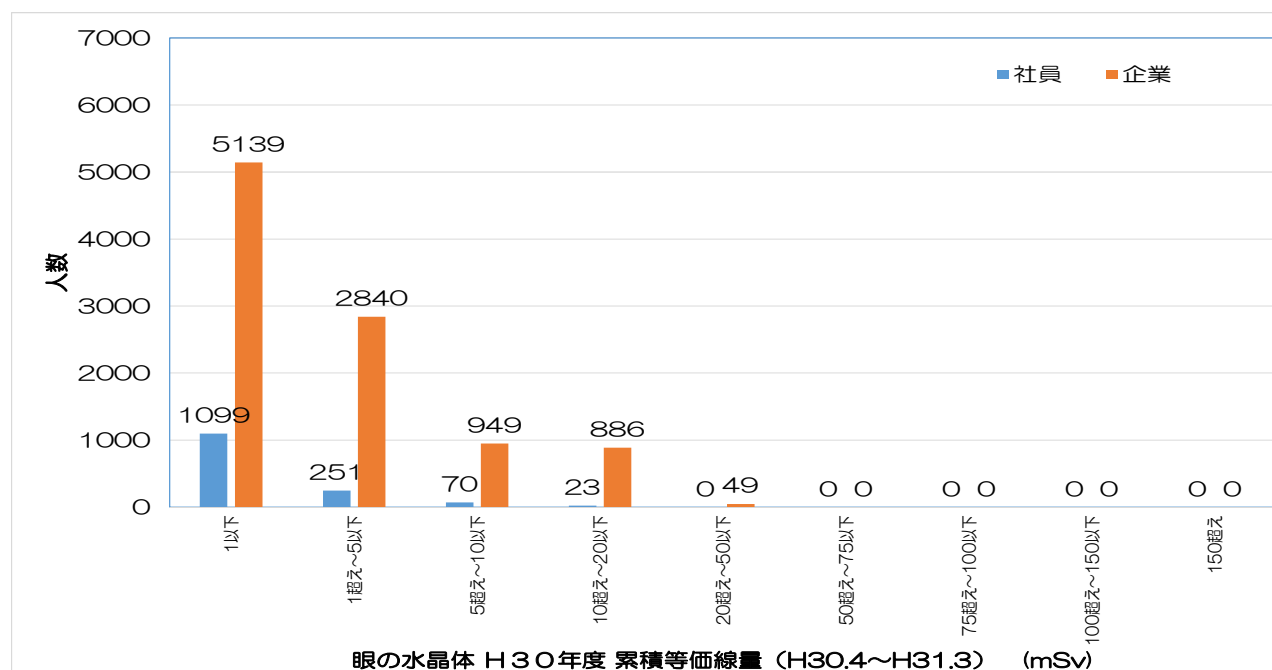
H30年度



※ 空白部分は未測定エリア

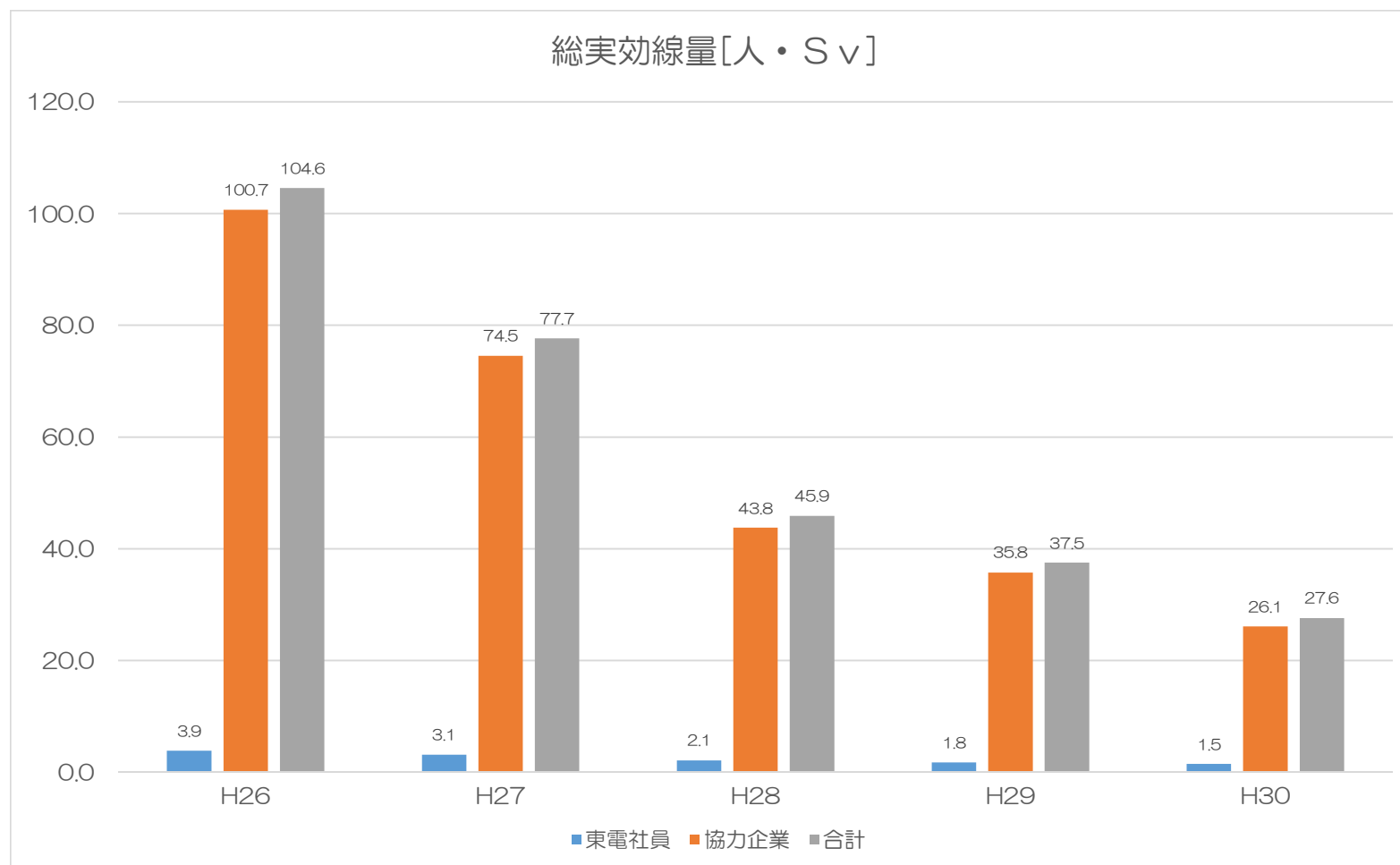
## 10. 眼の水晶体 累積等価線量分布(H30年度)

- H30年度より、水晶体の線量限度 50mSv/年を導入
- 原則、等価線量15mSvを超えたことが確認された段階で、その後の線量管理を考慮して水晶体近傍（又は頭頸部）にて測定を開始する。
- H30年度 50mSv/年超過者は無し。



## 11. 年度総実効線量の推移

- H30年度の時点では総実効線量は年々低下している。



## 12. まとめ

---

- 50mSv/年・100mSv/5年 を超過した作業者は無し。
- 個別の作業の被ばく低減対策、リモートモニタリングを用いた遠隔監視による線量管理などを実施し、被ばく低減に取り組んでいる。
- 工事設計段階から放射線管理部門と工事管理部門によるALARA会議などを通じて、個人被ばく線量が20mSvを超過しないよう計画を立案している。
- 日単位、月単位で個人被ばく線量の状況をチェック。